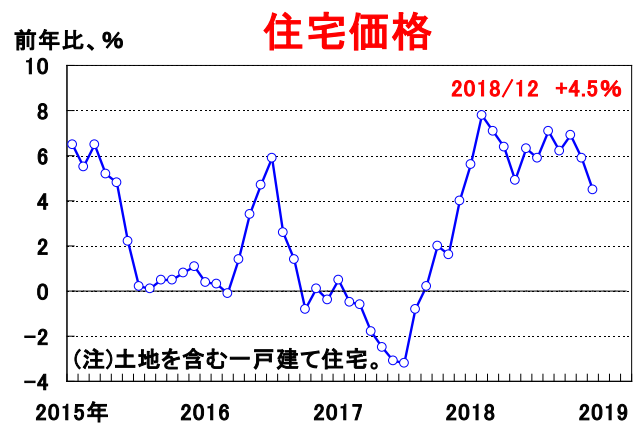
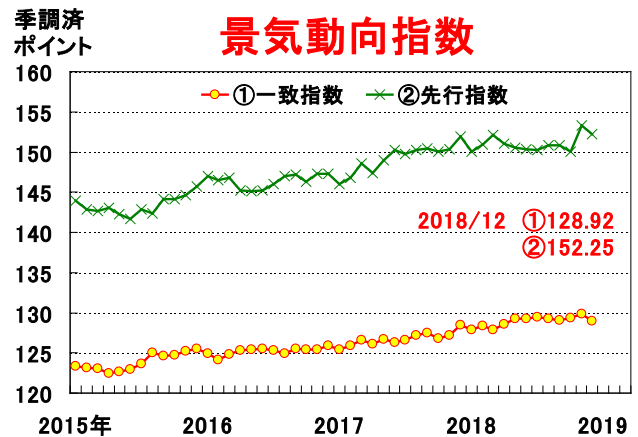
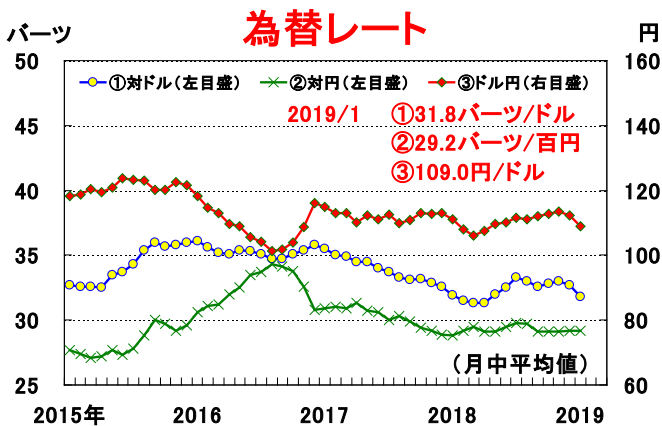
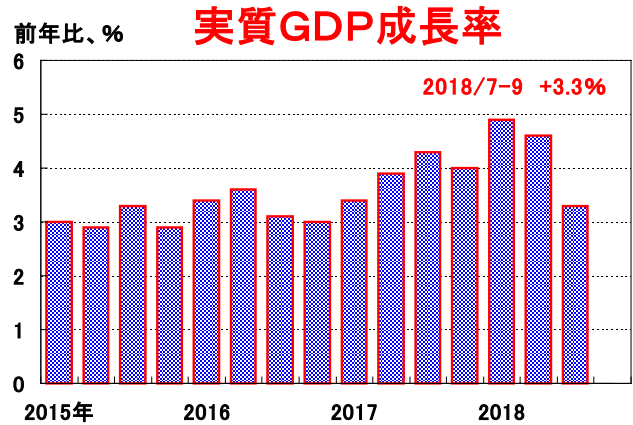
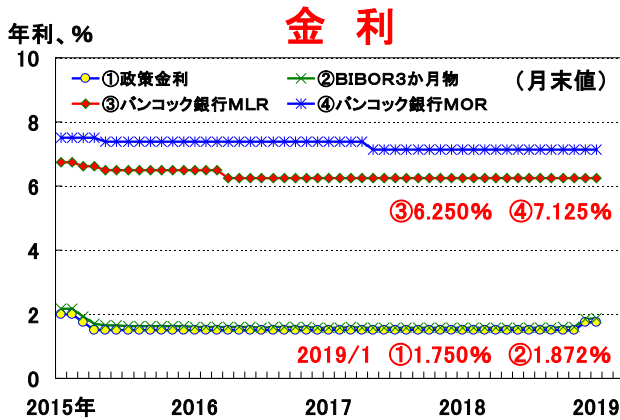


グラフで見るタイ経済 2019年2月号(No. 116)

タイ景気は回復の勢いが弱まった。2018年12月の指標をみると、企業部門では、輸出が前年比-1.7%(前月は同-1.0%)と2か月連続で前年水準割れとなった。輸出を主要地域別にみると、中国向けが2か月続けて減少し、日米向けも減速した。主力産業である自動車の生産台数が前年比+7.7%と伸びを高めたものの、工業生産指数は前月比-3.1%と大幅に下落した。民間投資指数も前月比-0.7%と下落に転じた。一方、家計部門に関しては、個人消費指数が前月比+1.1%とサービス消費の堅調な増加などを背景に、上昇に転じた。



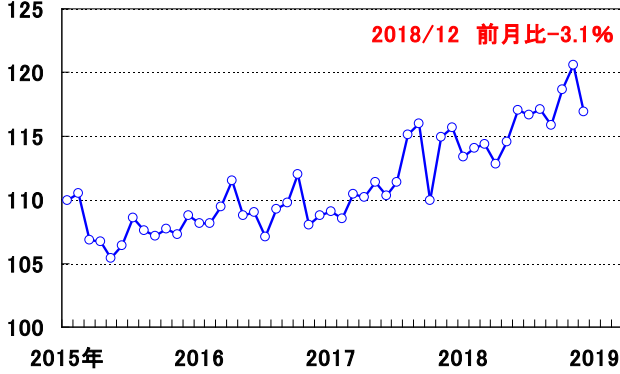
【今月のトピック:懸念されるパーツ高の進行】タイでは、高騰するタイパーツに対する懸念が強まっている。対ドルパーツ相場は昨年7月の安値の水準から6%近く上昇した。経常収支が黒字基調で推移していることに加え、昨年12月にタイ中央銀行が政策金利を引き上げたことなどが通貨高の要因となっているとみられる。輸出産業や観光業の比重の高いタイ産業界にとって、パーツ高の進行は悩ましい問題である。1月31日付けの現地紙の報道によると、輸出競合国に比べパーツの上昇ペースの速いことを懸念したアピサック財務相は、タイ中央銀行に対してパーツ高の抑制を要請したとされる。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

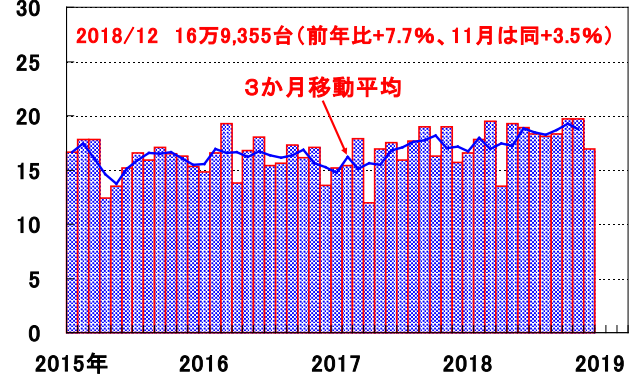
季調済
2011年=100

工業生産指数

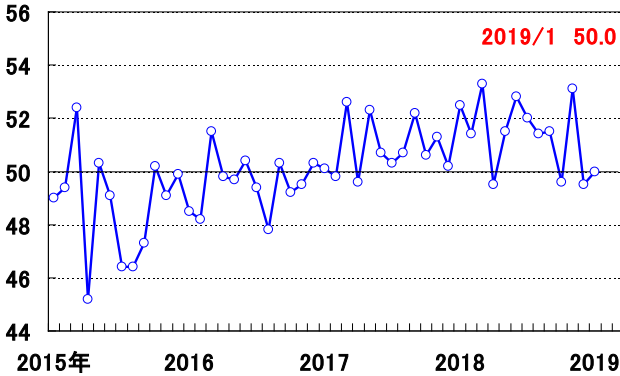


万台

自動車生産台数

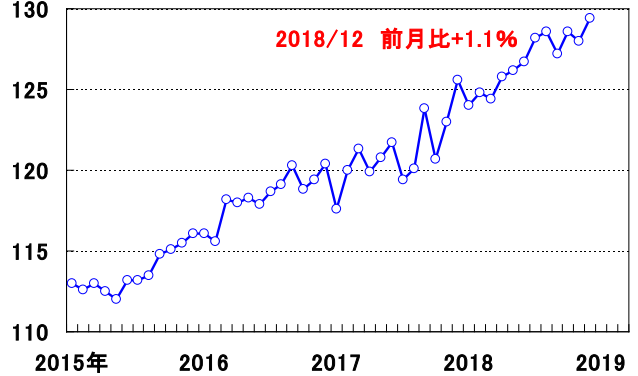


中立水準=50 **企業景況指数(BSI)**



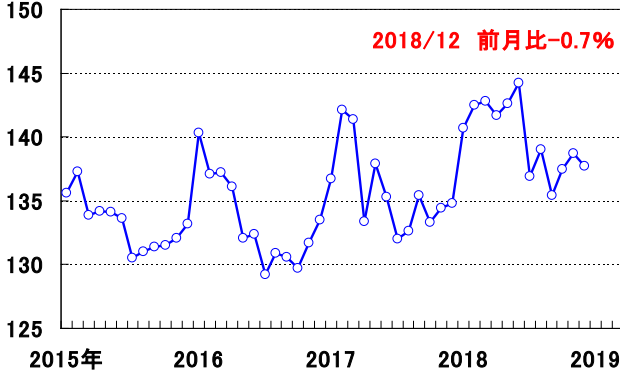
季調済
2000年=100

個人消費指数



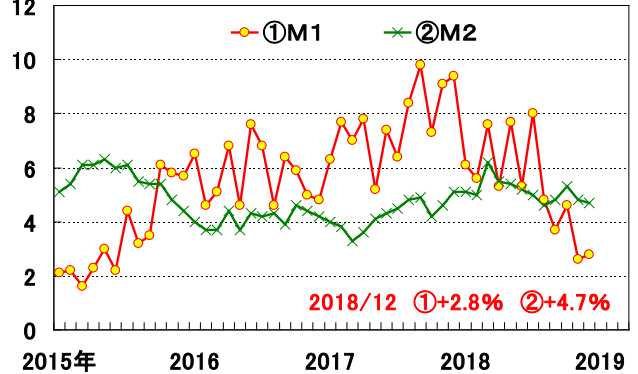
季調済
2010年=100

民間投資指数



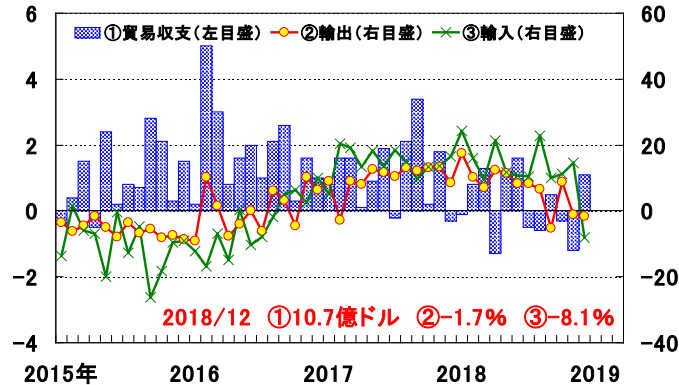
前年比、%

マネーサプライ



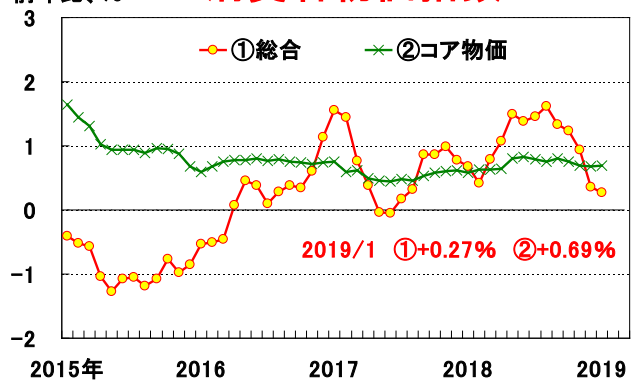
10億ドル

貿易収支



前年比、%

消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (FTI)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。